

有意義な才能（が、欲しいって話）。

与理原奈那

二月三日。節分の日、一人で豆をまきながら、なぜか分からないが、急に「引っ越そう」と思い立った。前々から、長年住んでいた物件には不満があったのだが、引っ越すぞという決意にはなかなか至らなかったのである。内見とか行って検討するのめんどいし。それがなぜか、急にものすごいやる気が出てきたので、いちばんだいたいな条件で検索して、よさげな物件の管理会社に、問い合わせフォームから連絡した。引っ越しシーズンということもあり、「早く行動したほうがいいですよ」と内見を急かされ、さっそく翌日見に行った。新しくきれいな印象の写真とは、実物がだいぶ異なる物件だった。ベランダに鳩がいたので、そこはやめた。

それまで腰が重かったのはやはり、「二度の内見ではすべての事情を把握できない」という事実があるからだ。内見のときは静かだったのに、住んでみたら騒音すげーわ、とかそういうのはあるあるである。僕が長年住んでいたアパートも、十年近い年月の間にいるんなことがあった。「決める前に、夜と昼と休日と平日と見に行けばいいじゃん」という向きもあろうが、そこまでお暇じゃないのである。

で、いくつかの物件を各一回内見させていただいた結果、身近な人に勧められたアパートに決めた。家賃は少し上がるが、今よりよさそうな環境なのでよしとする。

急に決めたことだったのでまとまった休みもとれず、毎日仕事の後にちよつとずつ荷造りをして、引っ越しの日を迎えた。

引っ越し業者は、見積もりを取った中でいちばん安かったA社に決めた。

僕はテレビも洗濯機も持っていないし、1Kにお住まいの单身なので、「手伝ってやるうか」と知り合いから声をかけていただいたりするのだが、そういうわけにはいかないのである。

A社の電話口の方にもお伝えしたが、大型家具を持たない僕の部屋の面積は、約千冊の本で占められているのだ。自分でもいやになってくるくらい量があるし、重い。申し訳なさ過ぎて、知り合いには頼めない。二百冊ほどある某漫画とかは、さすがに引っ越し前に売ったのだが、それでも段ボールは五十個くらいになった。

びんぼん。

当日来てくれたのは、A社の若い男性二人。片方がきばきと指示を出し、もう一人はバイトくんなのか、言われるまま動く。

僕が「重いかしら」などと気を遣っていくつかに分けた箱を、三つ重ねて軽々と運んでいく。すごい。筋肉は人を圧倒する。僕は自分では運動しなくせに、マッチョに憧れている。

引っ越しバイトって、運ぶだけだし誰でもできるだろ、と思った御前さん。違うのである。

誰にでもはできない。

僕は、「どうせ引っ越しからいいや」と大量に本を買い、段ボールに適当に詰めて積み上げていたので、次の部屋でどう配置していいかなど皆目見当がつかなかった。というか、物をスペースにきれいに当てはめて置くのが非常に苦手である。気づけばいるんな家具が、ヒトを乗せすぎている海外のバスみたいな状態になっている。引っ越しの段ボールも、運ぶときのことも考えずにドアの前とか家具の上に積み上げていた。

そんなやばい状況の部屋を一見して、お兄さんは段ボールと家具の量や置き方を把握・決定したらしい。新しい場所に着いて、僕がサイズを測りもせず適当に決めた配置を、「それ、こつちのほうがよくないですか」などと修正してくれる。そして、ベッドが中央にどーんとあるせいで（新しい部屋には先に寝具だけ運んであった）、周辺しかものを置けない狭いスペースに、サクサクと家具を配置していく。僕は段ボールを「テキトーに端のほうに積んどいてください」としか言わず、「後で何とかすればいいや」と収納の前はまだ置いてもらおうとしていたのだが、お兄さんは、「収納扉が開いたほうがいいですよね」と、ドアの前を見事によけて段ボール約五十個をきれいに積んでくれた。

もうネ、「才能」としか言いようがないのである。

いわゆる、空間把握能力というやつだ。

僕は自分の能力を診断してもらったことがあるのだが、コレが決定的に欠けていて、「ここに置いたらこれ邪魔だよネ」とかが全然分らんのである。その上、測りもせず家具を買うので、前の家でも、なんか通路に家具の角とかがはみ出していて、出かけるたびに邪魔なのであった。

それをこのたびの引っ越しで、邪魔にならぬ場所に家具を置いていただいて、非常にすっきりしたのである。……とともに、「筋力＋空間把握能力」とか最強かよ、初期設定

で世のニーズに合致してるとか妬ましいスキルだわーと若干ウジウジしておったのであった。

このように文章を書きながら、また、「小説家になりたいナ」などと願いながら何だが、「世のため人のために役立つ能力」「需要⇨安定した大きな稼ぎにつながる才能」みたいなものに憧れてしまう自分がある。「モノを書く才能」も僕には取り立ててないのだが、筋肉ならぬ筆力が、誰かの役に立って必要とされれば最&高よなア。

まずはAI殿に負けぬように、段ボールだらけの新しい部屋で、本に囲まれて文筆修行に励みたい所存である。